令和８年度　竹田教育事務所　実践事例の紹介

隣接型小中一貫教育校の取組①

豊後大野市小中一貫教育校 緒方学園 緒方小学校（児童数：98名）
緒方中学校（生徒数：54名）

小中一貫教育を生かした「つながり」を核とする学校づくり



緒方学園では、「総合的な学習の時間を通した郷土学習」と「9年間の連続性を生かした小中一貫教育」を両輪として学校づくりを推進している。地域資源を活用した探究的な学びと異学年交流を通して、「論理的な思考力と豊かな表現力」「共生力」「郷土愛」を育成し、自らの未来と地域の未来を創造する児童生徒の育成を目指している。

Point 1 小中連携による9年間を見通した教育活動

小学校と中学校の教職員が定期的に情報共有することで、児童生徒理解や指導方針の共通理解が進み、9年間を見通した一貫性のある教育活動につながっている。

Point 2 異学年交流による共生力の育成

歓迎遠足やチューリップの球根の植え付け・掘り起こし作業、スポーツ活動などを縦割り班で実施し、中学生がリーダーとして活動を支えている。異学年交流を通して、思いやりや協働性を育んでいる。

Point 3 幼小中をつなぐ円滑な接続

校区の公立こども園と連携し、年間7回の交流活動を展開している。5年生と年長児によるペア作りを通して入学前から関係を築き、入学後も温かい関わりを継続することで、安心感のある接続を実現。また、小中間ではZoomを活用したオンライン交流も取り入れ、互いの学びを共有し合っている。

令和８年度　竹田教育事務所　実践事例の紹介

隣接型小中一貫教育校の取組②

豊後大野市小中一貫教育校 緒方学園 緒方小学校（児童数：98名）
緒方中学校（生徒数：53名）

Point 1 小中連携による9年間を見通した教育活動

①「小中合同ケース会議」



②「小中合同授業研究会」



③「中から小への乗り入れ授業」



①市の子育て支援課や保健師、SSW等の専門機関を交え定期的に実施。小中で情報共有を行い、今後の取組について一緒に検討している。
②小中教職員の授業力向上と人材育成につながっている。また、校内研究では、小中共通の「学習の約束」を作成し、学習規律の徹底を図っている。
③中学校英語教諭による6年生英語の授業を実施。

Point 2 異学年交流による共生力の育成

①「歓迎遠足」



②「チューリップ球根植え・球根堀り」



③「FUNFUNスポーツ」



④「６年生中学校体験」



①1年生から9年生までが対面で集まって実施。「じゃんけん列車」等を行い、楽しいひと時を一緒に過ごした。
②小中合同縦割り班で、球根掘り（4月：5～8年生）、球根植え（12月：4～7年生）を実施。緒方町のイベント「チューリップフェスタ」の一役を担うことで、郷土愛を育んでいる。
③中学校体育教諭の指導の下、5～9年生が一緒に汗を流す。小中でペアとなり準備体操をした後、大なわ等を行った。
④6年生が中学校での学校生活を一日体験し、中学校への期待や見通しをもつ機会として実施。円滑な接続を図っている。

Point 3 幼小中をつなぐ円滑な接続

①「こども園との交流」





②「Zoomによる交流」



①校区にある公立こども園と年7回の交流活動を実施。5年生はペアを組んだ年長児と入学後もペアを組み、入学式では手をつないで入場する。こども園との情報共有の場を適宜設け、入学後の支援に生かしている。
②隣接校でありながら小中で校舎が離れているため、Zoomでの交流を実施。音楽祭や豊後大野市プレゼンコンテストの前に、互いの発表を見合い、感想交流やアドバイスを行っている。